

新生銀行 第14期定時株主総会 質疑応答要旨

2014年6月18日

質問者1

問① 新株予約権行使時の会計処理などと総発行株式数の変動について。

答 現在の株価は行使価格を大幅に下回るため、行使期間であっても行使されず、期限を過ぎれば行使権は自動的に消滅する。この場合、総発行株式総数は変動しない。

問② 大株主である預金保険機構と整理回収機構の保有株はいわゆる公的資金か？

答 然様である。普通株式にて保有していただいている。

質問者2

問① 低迷する当行の株価について、金利が上昇すれば株価はあがるのか？

答 金利と株価は関係がない。当行株価の低迷については、引き続き努力して皆さまのご期待に沿えるよう頑張ってまいりたい。

質問者3

問① 当行のインターネットバンキングにログインする際の個人認証の簡素化および残高照会機能の充実など、利便性を向上してもらいたい。他行にある照会システムと同等のものを導入することも検討してほしい。

答 利便性と安全性の二つの両立が必要と考えている。サービスの向上については今後の検討課題として承る。

質問者4

問① 当行が専門性を有する分野に積極的に取り組むということだが、具体的にはどのような分野にどのような強みがあるのか、また収益性への貢献は？

答 ノンリコース型のファイナンスやプロジェクトファイナンスなどの、いわゆるキャッシュフローファイナンスである。企業の信用力に応じて資金を提供するのではなく、事業のリスクおよびキャッシュフローを評価、分析し、資金を提供するもので、経験の蓄積により当行の強みと自負しており、また通常のファイナンスより収益性も高いものである。

質問者5

問① 今後、どのくらいのペースで不良債権の処理を進めるのか？

答 不良債権比率は2011年3月期の6.78%に対して、2014年3月期は3.81%まで低下。不動産市況の活況化が一因。引き続き、不良債権の最終処分は積極的に進めていきたいと考えており、今年度中に2%台達成可能と考える。

質問者6

問① 有価証券関連の損益は構造的にどのようになっているのか？

答 資金需要ギャップの調整として限定的に運用、相場が上下することは致し方ないが、損失は一定程度の額に抑えるよう運用しており、一過性のものである。

質問者7

問① 外国為替相場に対する見解をうかがいたい。

答 予想は難しく困難。ただ個人的な見解としては、大勢として、FRB（米連邦準備理事会）の金融政策が超緩和から正常化に向かっており、ドルの金利が上がっていくとすると、為替レートはそれにつれて円が緩やかに下がっていくという方向だと予測している人が多いように聞いている。

質問者8

問① 当行の、レイクやシンキなどの消費者金融のセグメントが占める割合を知りたい。どのぐらいの利益が上がっているのか？

答 貸出残高で見ると、2014年3月末の貸出金約4.3兆円のうち、コンシューマーファイナンス業務では約5,000億円の規模であり、全体の8分の1を占める高水準である。当行としては、利便性に訴え、新たな顧客層を開拓し、健全な市場の形成に寄与してまいりたい。

問② 公的資金は、株価が463円以上になれば返済するのか？

答 公的資金は普通株となっているため、株価を大幅に上げないと、公的資金をお返しできないという認識であるが、具体的な水準その他についてはお答えできない立場にない。

以上